

# イベント情報 ①

大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部 2020年度 WEB 版公開講座  
不安に立ち向かう！

## これからの社会を生きるために

配信期間：2021年2月1日(月)～3月31日(水)  
申込締切：2021年3月25日(木)  
参加方法：下記のいずれかの方法で、申込みフォームに  
必要事項を記入の上送信してください。  
①QRコードから申込み  
②OIU地域協働センター 検索 ホームページから申込み



- 申込みフォーム送信後に、YouTubeチャンネルのURLが表示されます。そちらから視聴ください。
- お申込み時期に関わらず、視聴期間は3月31日までとなっております。※限定公開となっておりますので、録画・収録などはお控えください。※ご視聴するにあたり、インターネット環境が必要となりますが、環境設定に関するご質問については対応いたしかねますのでご了承ください。

YouTube 限定公開中！  
受講料無料

お申込みは  
3月25日まで！



### 「きなこちゃん」

うちのボメラニアン(4歳)はキナコ餅のような色をしていたので命名は「きなこ」。気まぐれな男の子で、一つひとつの所作が笑いを誘います。フサフサの毛が暑々うだったので自宅で私が散髪しました。イメージはライオン！自宅の小さなライオンが自由奔放に毎日明るい雰囲気をお届けしてくれます。  
(きなこ専用インスタアカウント：kinako\_story 和歌山市M)



# イベント情報 ②

FM HANAKO 「いきいきライフもりぐち」に出演—  
守口市×大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部プレッパーズ部

3月5日(金) 12:15～12:30 放送

【内容】  
数年来、本学のプレッパーズ部と守口市危機管理室が協働してきた地域防災力向上について対談。

【出演】  
・西岡やかり准教授(プレッパーズ部顧問)  
・人間科学部3年生 高橋孝介さん(プレッパーズ部部长)  
・守口市危機管理室(池田様・板口様)



### 活動内容

プレッパーズ部員が動画出演(10本!)  
避難所を設立した地域防災啓発活動  
「緊急時、避難時に役立つ防災グッズづくり」 Youtubeはこちら↓



協力：守口市危機管理室

\*スケジュールは変更になることもあります。

2021年3月1日発行  
大阪府守口市藤田町6-21-57  
学校法人大阪国際学園 企画・広報室  
koho@oiu.jp



—さらにいろんな情報をご紹介します。—

facebook.com/kuskusOIEI Instagram.com/kuskusoiei

https://www.oiei.jp/kusutto/  
こちらのホームページでくすくすバックナンバー等をご覧ください。

# くすくす

—まなび・くらし・つながり—

2021年3月号

## No.94

名前『くすくす』の由来は、「くすくす談笑する様子」と「すくすく育つ」をかけています。

『くすくす』は、みなさまの「くらし」と大阪国際学園の「まなび」をつなげたい、そんな思いを込めたフリーペーパーです。

## つながりニュース

### 大阪府警主催の「サイバー防犯ボランティアオンラインワークショップ」にホスト役として参加！

2月16日、大阪府警察サイバー防犯ボランティアに登録中の12大学が参加するワークショップでホスト役を担いました。本学は、2019年度から大阪府警察本部サイバー犯罪対策課の方々と協力して、学生たちが大阪府下の小学校でサイバー防犯教室を実施しています。ワークショップでは、コロナ禍でインターネットの利用者が様々な年代に広がり、サイバー犯罪等のトラブルに遭う危険性も高まっていることから今後の防犯啓発活動への意見交換を実施。総勢20名を超える大学生の参加で沢山の意見を共有できる有意義な時間となりました。  
(大学・短大)



## えすでいーじーず？



持続可能でよりよい世界を達成するために掲げた17の国際目標SDGs(エスディーゼーズ)。今回は「14海の豊かさを守ろう」「15陸の豊かさを守ろう」を取り上げます。「14海の豊かさを守ろう」に関連して本学 上原講師が解説します。

### 14 海の豊かさを守ろう

わたしはSDGs(持続可能な開発目標)に関する専門家ではありません。わたしの専門は社会学で、主に沖縄の地域社会について研究を続けてきました。そんなわたしが、SDGsのひとつである「海の豊かさを守ろう」について、少しばかり考えていることを紹介します。

2019年の夏、心理コミュニケーション学科の学生22名と共に、沖縄の海の豊かさを守るために活動する団体から話を伺いました。もっとも印象的だったのは、「休日返上」や「手弁当」で活動をしていることでした。なぜそこまでして活動をするのでしょうか。それは、自らが生まれ育ち、暮らしてきた「地元の海」に誇りを持ち、愛着を抱いているからです。その話を聞いたわたしは、その想いに感動しながらも、一方で、その想いやたゆまぬ努力によって守られてきた豊かな海に、現在、「平和」のための大量の土砂が流し込まれていることに悲しみを抱きました。基地建設の話です。

「よりよい社会」を目指すために提唱されたSDGsは、どの地域社会においても重要な課題であり、「誰ひとり取り残さないこと」を目指した国際社会の目標だとされています。地元の海の豊かさを守るために

活動している人たちのことを思い浮かべながら、「誰ひとり取り残さないこと」の「誰ひとり」という言葉の意味を考えています。  
(心理コミュニケーション学科講師 上原健太郎)

### 15 陸の豊かさを守ろう

どれほど自然の少ない都会に住んでいても、砂漠地帯に住んでいても、人間の暮らしはすべて、森林や山地、湿地、川や湖、そして多様な生きものたちに支えられています。しかし産業の発達とともに、こうした自然が失われつつあります。地球上の貧困や飢餓などをなくすために開発は重要ですが、そのために私たちの生命を支えている自然環境が破壊しつくされてしまえば、この先、人間は生きていけなくなってしまいます。それでは元も子もありません。人間を含めた生物がこの地球で長く暮らしていけるようにするためには、自然環境と生物の多様性を守っていくことが必要です。ただし、一切の開発をやめて原始の自然に戻そうというのは無理があります。人間はこれまでも自然の恵みを利用しながら生きてきたのですから、これからも長くその恩恵を受けられるような道を探らなくてはなりません。森や山の木を伐ったら植林すること、希少な野生動物の売買を禁止することなど、できることはたくさんあります。

(抜粋：未来を変える目標 SDGs アイデアブック)

### 大阪国際学園教員紹介 : No.0008



専門分野：社会学 沖縄研究  
大阪国際大学人間科学部  
心理コミュニケーション学科  
上原健太郎 講師

わたしたちは、特定の地域社会で「いろんなこと」を学び、大人になります。育った地域が変われば、とうぜん「学ぶ内容」も変わり、その結果、地域によって「理想の大人」のあり方にも違いが出てきます。社会学の視点から、こうしたことについて日々、あれこれ考えています。